

連合会の技能向上と継承の取り組みが結実

～2024技能グランプリで代表が銀賞を受賞～

任せて安心 優秀技能士の店。山梨県畳同業組合連合会（広瀬久理事長）は、畳製造を営む県内11地区の50店が集まり、4つの部会を中心に日本の文化である畳の品質や技能の向上、普及活動を行っている。教育部では、技能者の育成や技術の向上を目指し、会員の一級技能士が講師となり年間を通じて技能検定試験や技能グランプリに向けた講習会を開催している。

技能グランプリは隔年に一度行われる日本一の技能士を決める大会であり、第32回大会は2月24日福岡県北九州市で開催された。全30職種

の競技のうち建設部門の畳製作競技には全国から23名が参加し、山梨県代表で堀田誠道さん（堀田畳製作所）が出場した。競技内容は5時間の間



競技風景

に手縫いで1畳を詳細な仕様に基づき製作するもので、寸法精度や工具の使用方法、作業態度や時間で採点される。大会最年少出場となる堀田さんは並みいる全国の先輩一級技能士の中で、これまで培った巧みな技能を如何なく発揮し、見事銀賞（2位）を受賞した。連合会からは8名が応援に駆けつけ、お揃いの連合会のTシャツと法被、うちわで盛り上げた。

技能グランプリではこれまで山梨県代表が金賞、銅賞、敢闘賞の成績を収めており、山梨の組合の技術の高さには定評がある。広瀬理事長は、「畳製作の伝統技術はユネスコ無形文化遺産にも登録されており、私たちは先人の築き上げた遺産である日本の畳を保存して継承していく責務がある。今回の結果は、教育部の先輩一級技能士が中心となって開催している講習会で



銀賞の堀田誠道さん(中央)

の技能向上、技能継承の取り組みの成果であり、今後も技能士資格の取得促進と育成に邁進していく。」と述べた。



担当：齊藤